



新庁舎イメージ図

庁舎建設基本設計が完成

「安心」と「つながり」のまちづくり拠点

庁舎建設基本設計が完成しましたので、その概要をお知らせします。平成27年度は、さらに詳細な設計を進めていきます。

配置計画

◆新庁舎が街の「ぎわい」の核として生まれ変わるまち、駅前からつながる岐山通りに、2階建ての「仮称シビックプラットホーム」を配置します。

◆街のにぎわいをつくりながら、岐山通りに建物の圧迫感を与えず、眺望の広がりを得るよう、仮称「シビックプラットホーム」の奥に6階建ての庁舎高棟を設けます。

◆庁舎高棟は、西・北側の住宅地への日影を最小限にするまち高さを低く抑えます。

◆庁舎棟西側には、防災備蓄品やイベント物品を収納する平屋建ての別棟倉庫(倉庫棟)を設けます。

◆公用車駐車場は、別棟倉庫の屋上部に設け、敷地を有効に活用します。

6F(6階)の概要

■全ての人に分かりやすく、利用しやすいにやさしい庁舎

■窓口・相談機能・情報交流機能

●吹き抜けを庁舎の中心に据え、窓口が周囲を取り込むコの字型の施設構成とし、明るく見通しの良い、分かりやすい庁舎とします。

●来庁者が視認しやすい施設構成、分かりやすい表示・シリアルでゆとりのある通路幅など、ユニバーサルデザインに配慮した庁舎とします。

●市民の利用頻度が高い窓口を低層階の利用しやすく、通りに集約し、出生や転入・転出など複数の行政手続きができるだけワンフロアで完結する窓口とします。

■「安心・安全」の拠点として市民の暮らしを支える庁舎

●廊下と執務スペースの間も見通しが良く、来庁者と職員の間から声を掛けやすい庁舎とします。

■地球環境にやさしい環境配慮型庁舎

●初期費用が掛かる環境技術の採用に当たっては、運用コストの低減効果やB・C・P対策としての有効性、市民への環境技術促進のアピール度を考慮して導入します。
※B・C・P：災害や事故など不測の事

防災中核機能

●災害時に対策本部機能を迅速に立ち上げるスペースを確保します。

●災害対策の中核となる庁舎棟部分に免震構造を採用し、発電機などの設備を備えて、インフラが途絶えたときも庁舎機能を維持し、継続的な災害対応が可能な庁舎とします。

■市民協働の拠点として親しみやすく、誇りが持てる庁舎

■市民協働機能

●岐山通り沿いに整備する「仮称シビックプラットホーム」は、圧迫感の少ない低層とし、通りからも市民活動の様子が見え、親しみやすい庁舎の顔とします。

■「ぎわい」を創出し、まちに活気を与える庁舎

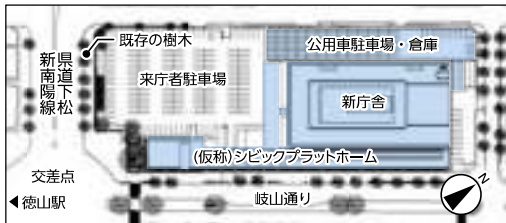
●憩い・にぎわい機能

●熊を想定して、事業継続の視点から対応策をまとめたものです。

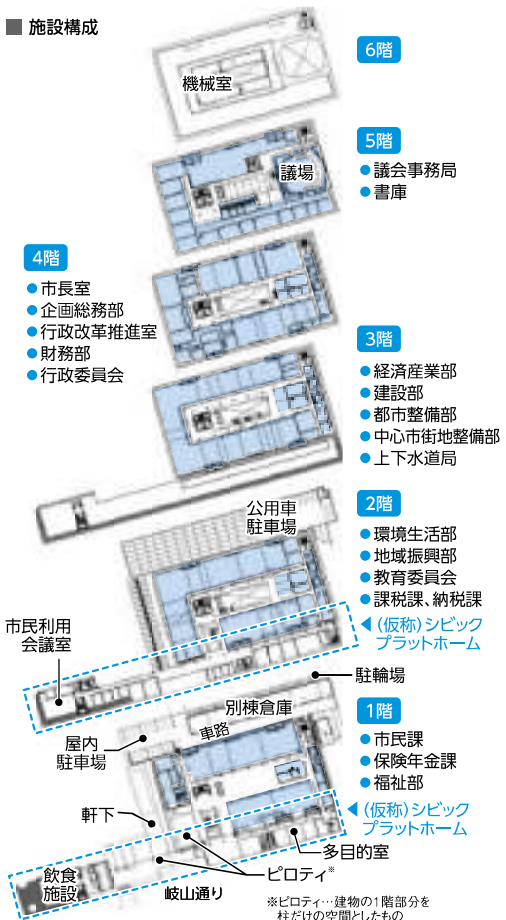
●外周にバルコニーを設けて日射の熱負荷を抑えつつ、足場やコンドラーに頼らないメンテナンスがしやすい庁舎とします。

●吹き抜けを利用した重力換気システムや太陽光発電設備、雨水の利用、地中熱利用による自然エネルギーの活用、エネルギー管理を容易にするビルエネルギー管理システムの採用により、環境負荷を低減します。

配置図



施設構成



延べ床面積比較表

基本設計を行った結果、屋内スペースは18,750㎡となり、屋内の用途等を含めると20,930㎡となります。

	基本計画		基本設計	増減
	A	B		
屋内	庁舎スペース	18,007㎡	17,040㎡	△967㎡
	市民利用スペース	1,138㎡	1,140㎡	2㎡
	別棟倉庫スペース	855㎡	570㎡	△285㎡
	小計	A 20,000㎡	18,750㎡	△1,250㎡
屋内の用途等		B 0㎡	2,180㎡	2,180㎡
合計		A+B 20,000㎡	20,930㎡	930㎡

※市民利用スペース…(仮称)シビックプラットホーム棟のうち飲食施設、市民利用会議室、廊下など
※屋内の用途等…各所ピロティ部、軒下、屋内駐車場、駐輪場、車路

建築概要

- 建設地/現本庁舎敷地
- 延べ床面積/20,930㎡
- 構造/鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
- 階数/地上6階(6階:機械室など)
- 駐車台数/来庁者用165台

今後のスケジュール

平成27年度 実施設計完成、仮庁舎移転(旧近鉄山下百貨店現勤労働社センター)

平成28年度 新庁舎建設工事着手

平成30年度 新庁舎完成

※詳しくは、市ホームページで公表しています。

問合せ 庁舎建設課庁舎建設担当 ☎084-22-8133